

文京区障害者地域自立支援協議会 平成 21 年度就労支援専門部会まとめ

第 1 回 (H21.7.6)

就労支援部会の進め方について検討

【就労支援部会で検討していくこと。】

- ・ 関係機関での障害者の就労に関する相談や支援内容について、情報交換及び調査研究・検討等を行っていく。
- ・ 障害のある人の就労の機会の拡大と安定が図れるよう、関係機関とのネットワークを構築し連携を図るとともに、必要な就労支援策を協議・検討する。

【部会の具体的な取り組みについて次の 2 点を確認】

- ・ 就労支援の現状や課題について、各機関が情報共有していく。
- ・ 各施設等における現状と課題を把握するための調査（事務局より調査票を送付）を実施する。

調査票の作成・回答・集計 (H21.12~H22.1)

【調査票の内容】

- ・ 施設の現状《定員 相談対応状況（電話・来所）
事業内容 事業所の特徴、得意分野 インターンシップ活用状況
過去 3 ヶ年の就労実績 就労に際し連携している機関》
- ・ 就労支援を行っていく上で、困っていること。課題のあったケース

- ・ 検討を行うにあたっての「切り口」（障害別の検討等）について、実態を把握した上で検討する。

第2回(H22.2.24)**各施設における現状と課題について情報共有**

調査票の結果を元に…

【各施設の現状について報告】**(1) 身体・知的施設**

- 若い人は就労に結びつく場合もあるが、全体的に重度高齢化が進んでいる。
- 就労支援センターと連携して、一般就労につなげていきたい。
- 就労というよりも創作活動等が中心で、施設内の日中活動を行っている。
- Bunkyo アンテナスポット事業や障害者インターンシップ事業に参加できて良かった。

(2) 精神施設

- 従前は統合失調症の利用者だけだった。最近はアスペルガー等の発達障害者等の利用者が増えてきている。
- 希望者を対象にパソコン教室を開始した。パソコンのスキルの有無によって、求人の範囲が広がると利用者自身が感じているようで参加希望者が増えている。
- 就労経験のある若い人たちの通所が増えている。一般就労に向けてどのように支援していくか模索中である。
- 就労支援センターとの連携で、就労者数が増えている。

(3) 学校

- 卒業後の就労支援及び定着支援について、就労支援センターと協力連携をしている。
- 一時的な福祉的就労も視野に入れた支援協力を関係機関に依頼している。
- 厳しい雇用情勢の中、まだ就職の決まらない卒業生がいる。

【就労支援を行う上で困っていること】**(1) 身体・知的施設**

- 一般就労が能力的にみて出来ない人に対して、保護者と本人にどのように説明し理解してもらうか苦慮している。
- 自閉傾向のある知的障害者の場合、作業能力はあるが面接が苦手な傾向がある。
- リタイヤした障害者の中には一般就労意欲が低下している人もいる。

(2) 精神施設

- 自分の状態（障害の程度、就労できる状態か否か）と理想（本人の就労に対する高すぎる希望）、現実（精神障害者の一般就労で求められるスキル）

のギャップが大きすぎて、現実認知をさせることに苦慮している。

○就業場所、訓練場所が少ない等

(3) 学校

○本人の就労能力と保護者の希望がマッチングしない場合があり、保護者の理解を得るのに時間がかかる場合がある。

○身体（聴覚・盲）と、知的障害の重複障害があることを保護者が受容できない場合があり、進路指導を難しくする場合がある。